



2023年 8月 8日  
第12号

JR東労組   
Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実  
編集 情宣担当  
ホームページ



<http://www.jreu-yokohama1.jp>

## 横地申第1号「JR東労組横浜地本第28回定期大会」発言に基づく申し入れ 提出!

JR東労組横浜地本は、2023年7月8日に「かながわ労働プラザ」において第28回定期大会を開催し、向こう一年間の方針について満場一致で確認しました。多くの代議員から、矢継ぎ早に実施される「変革2027」に基づいた会社施策に関する発言がされました。営業職場においては「人が減らされ職場全体が疲弊している」、運車職場においては「休日出勤が多発している」、工務職場においては「組織再編や人事異動によって業務量が張っている」など、特に要員に関する発言が多く出されました。さらに系統を問わず、技術・技能継承の課題が発生している現実や実態が発言されました。「融合と連携」の名の下で社員への負担が増え、「会社は多様な経験による社員の成長というが、教育や訓練、技術継承はどうなるのか。教えたくとも人も時間も足りない。安全が守られるか疑問である」等、施策が進められることによる安全レベルの低下を懸念する発言もありました。また、各駅においてはみどりの窓口の閉鎖や営業時間短縮で徒列が発生しており、お客さまに対するサービスレベルは確実に低下しています。

私たちJR東労組横浜地本は大会発言を踏まえ、労使で危機感の一致を図り、今後進められる様々な施策を担う社員が不安を解消し、やりがいを持てる施策にするため、下記の通り申し入れますので、真摯な回答をお願いします。

### 申し入れ項目

1. 「変革2027を踏まえた新たなジョブローテーション」において、管理者は社員が思い描くキャリアプランを下支えし助言する役割がある。よって管理者は社員のキャリアプランの実現に責任を持ち、社員の納得感をつくり出し、意思疎通が不十分なままの不幸な異動や担務変更を引き起こさないこと。
2. 起こした事象に対して懲罰的な日勤教育は行わないこと。また発生した事象に対しては責任追求をやめ、4M4E手法を用いた原因究明を行い、安全第一の職場風土を構築すること。
3. DX推進の実態として、属人の技術力に依存した開発や運用をしているため、エバンジェリスト指定の有無に関わらず担当者の負担が大きい。継続してメンテナンスや改良ができるよう、経験者や自己啓発に頼らないDX推進人材の育成を行うこと。
4. 信号メンテナンスセンターの宿直業務において、信号設備技術センターからの宿直者が出せず、メンテナンスセンターから2名を出すことが増えていることから、技術センターに十分な要員配置を行うこと。
5. 軌道回路の短絡不良に起因する重大な事象が多発していることから、信号制御に直結しながらも定期運用がない線路に対する改良を行うか、対策が完了するまで線路の使用停止を行うこと。
6. 横浜駅、鎌倉駅において、ホーム立ち番廃止により、ドア挟まりの増加と転落発生時の対応の迅速さが失われていることから、多客が見込まれる時間帯はホームに要員を配置すること。また、ITVの設置によりホーム立ち番の配置と同等以上の安全性が確保できる根拠を示すこと。
7. 要員不足と出面数の減により、改札窓口を閉めなければ車イス対応や遠隔システムの対応ができない。休憩時間の確保と休養が取れ、かつスムーズなお客さま対応ができる要員配置を行うこと。
8. 出札窓口の削減によりお客さまの徒列が増大し、サービス低下につながっている。徒列を解消できる販売体制をつくり出すために、時間外労働を前提としない形で要員確保を行うこと。
9. 見習い時に、計画した日数よりも前倒しで一本立ちさせる事象があった。一本立ちにあたっては、本人が担務に必要なとされる能力を持ち、かつ本人に不安がない状態を相互に確認して行うこと。

## 安全で安心して働ける職場環境を実現しよう!